

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	有限会社古市工務店	型枠工事使用後の、廃棄木材の再利用について	型枠専門工事会社の四国全域での組合がありますが、廃棄木材の産業廃棄物処分費に、大きな費用がかかっています。組合で交渉してパチクルボードを製作している、香川県の大倉工業様に相談させて頂き、パチクルボード製作用の原材料として再利用して頂く事となり、原材料として販売できるようになりました。	
参加賞	株式会社ショウエイ	時間の有効活用及び経費節約	社員の勤務就業内容の変更に伴い就業規則変更。 変更内容 (勤務時間場所は社員の裁量に任せるに変更) AM 8時～PM17時(内1時間休憩時間含む) 週5日勤務に変更はないが、会社に出社しなくても出来る仕事は出勤しなくても在宅にての仕事可。 在宅勤務日の仕事内容は専用レポートに記入にて毎月末の全体店社協議会にて提出。 ※通勤にかかるガソリン代・高速代の節約及び通勤にかかる時間の有効活用	社員の自己管理能力UP ガソリン代・高速代・電気代等経費の節約(前年度約15%ダウン)
参加賞	株式会社弘和建商	全社的な資産管理の標準化BC強化による持続可能な運営体制の構築	当社では、パソコン・携帯電話・タブレット・社用車・非常食備蓄・新入社員準備など、会社全体の資産を一元管理する体制を構築し、BCP(事業継続計画)の強化を図っている。 (1) 端末管理の標準化 パソコン・タブレット・携帯電話について、利用者・拠点・スペック・OSバージョン・インストール日・更新予定時期を記録した「端末管理台帳」を整備。 OSインストール日=購入時期として管理し、更新対象を明確化。 HDD搭載の旧型PCは2026年更新対象としてピックアップし、計画的な入れ替えを実施。 携帯電話は割賦終了月・契約更新月を一覧化し、全社員が2026年10月に同時更新できる体制を整備。 (2) 車両管理の標準化 毎月の走行距離・車検満了日・乗り出し年月日を記録した「車両管理表」を運用。 20万km・25万km・30万kmの節目で点検・買い替え基準を設定し、故障による業務停止リスクを低減。 30万km超の車両(例:305,888km)は最優先で更新対象とし、安全性と環境負荷低減を両立。 (3) 新入社員受け入れ体制(SEAT)の標準化 営業・工場・工事課・職長など、部署別に必要な備品を一覧化した「新入社員準備リスト(SEAT)」を作成。作業着・PC・携帯・名刺・安全帯・ヘルメット・社用車など、担当者を明確化し準備漏れゼロを実現。入社初日から業務がスムーズに開始できる体制を構築。 (4) 非常食・水の備蓄管理 非常食・飲料水について、購入年・数量・賞味期限・配布予定月を一覧化した「非常食在庫管理表」を整備。7日分×人数分の備蓄を確保し、賞味期限に合わせて計画的に配布することで食品ロス削減BCP強化を両立。	(1) BCP強化: 災害時・緊急時に必要な端末・車両・備蓄品の状態を即時把握できる体制を構築。業務停止リスクが大幅に低減。 (2) 資産管理の効率化: 端末・車両・備蓄品の更新時期が明確になり、計画的な入れ替えが可能に。管理の属人化を解消し、誰でも確認できる仕組みを実現。 (3) 働き方の改善: 新入社員受け入れ体制の標準化により、準備漏れゼロを達成。早期戦力化と定着率向上に寄与。 (4) 環境負荷低減: 古い車両・旧型PCの計画的更新により、燃費悪化・電力消費増加を抑制。廃棄ロス削減にも貢献。
参加賞	株式会社双葉資材	サステナブルアクション活動への参加	【環境関連】 ・作業所への通勤を電車通勤としCO2削減に配慮した。 ・熱中症対策の一環として空調服を作業員全員へ配布し作業員の体調管理に配慮した。 ・熱中症対策の一環として作業時にこまめな休憩・水分・塩分補給を促し作業員の体調管理に配慮した。 ・低排出ガス・低燃費の建設機械(クレーン・バックホー・発電機等)を使用して環境に配慮した。 ・TO-MINICAのCO2排出調査を毎月提出し戸田建設様様の環境活動へ参加した。 ・杭工事を通じて地域のインフラ整備に貢献し地域の安心・安全な暮らしを支えSDGsへ配慮した。 【社会関連】 ・自社安全大会にて、ハラスメント講習を行い全作業員にハラスメント対策の周知を行った。 【品質管理】 ・品質管理に対する管理チェックリスト・作業手順書の読み合わせ等の実施を行った。 【その他】 ・自社安全パトロールを月2回行い、危険な箇所での改善及び復旧指導、現場で適切な安全対策が出来ている事を確認し安全面に配慮した。	・電車通勤にすることでCO2削減に貢献した。 ・TO-MINICAのCO2排出調査へ積極的に参加した。 ・送り出し教育・月2回の自社安全パトロールを行い、無事故・無災害で作業を終了させた。
参加賞	杉山建設株式会社	自己・他社への理解を深め、ハラスメント予防への取り組み	研修テーマ:「ハラスメント及びアンガーマネジメントについて」 主な内容: 「テーマ」 1.なぜ職場のハラスメント対策が必要なのか? 2.ハラスメントの定義と業務指導とは? 3.アンガーマネジメントから考える誰もが被害者、誰もが加害者? 4.職場のハラスメントを予防するためには? 「取組」 ハラスメントや怒りが及ぼす影響(「労働者の生産性の低下」「職場環境の悪化」「人材の喪失」「応募者の減少」「社会的評価の低下」など)を知り、その後ハラスメントや怒りについて具体的なテーマに沿って自分の考えをまとめ、グループ内で発表し、他者と自分の考え方の違いを知り、自己の行動を客観的に捉え、今後の自分の振る舞いや言葉かけについて「どうすればハラスメントを予防できるか」「怒りはどのようにコントロールできるか」を4~5名のグループごとに、話し合いを行った。 研修後の感想: 「同じテーマであっても人によって感じ方が違うことを痛感した」「考え方の違う人には言葉かけを変えなければいけないと客観的に知ることができた」「自分の行動や言葉かけを変えることでハラスメントの予防ができると感じた」などの意見が出た。	研修開催日:2025年10月18日 危険が伴う場合など厳しい言葉を使う必要がある場面でも、厳しい言葉の後に余計な一言を付けない「思いやり」を意識して声を掛け合う社内風土が広がっていると感じる。
参加賞	株式会社プラスト	1)環境配慮型家用自動車の利用 2)暑さ対策	1)弊社は全支店の全営業車でハイブリット社を利用して営業活動を行っている。 2)一昨年より現場及び営業活動を行う外回りを中心の社員に空調服を支給、昨年4月に全支店に冷凍庫を装備し、暑さに応じて冷凍したスポーツドリンクを持たせている。	ガソリン車の時に比べ燃料使用量が激減した。熱中症になった社員はいませんでした。
参加賞	株式会社早川技研	環境関連	1.活動の目的 現場で使用するマーキング用マーカーは、墨出し作業において頻りに使用される消耗品であり、使用量も多い資材の一つです。本取り組みでは、マーカーのインクタンク部分を一定回数再利用することで、資材の使用量削減および廃棄物削減を目的としたサステナブル活動を実施しました。 2.活動内容 墨出し作業で使用するマーキング用マーカーについて、通常は使用後に廃棄していたが、インク液タンクに墨汁を入れ、状態を確認しながら再利用する運用を実施しました。ペン先も交換 具体的には、 ・墨入れは4~5回程度まで再利用・使用状態を確認しながら適切なタイミングで交換 ・インク漏れなどの不具合が発生した場合は即交換とするルールを設け、安全性と作業品質を確保した上で再利用を行っています。 3.適用範囲 墨出し作業では、親墨には水性マーカーを使用することが望ましい場合があります。特に仕上げ工程に影響する可能性のある箇所では、油性マーカーよりも水性マーカーの方が望ましいケースがあります。そのため、一般的なコンクリート面の墨出し作業では水性マーカーを使用し、資材を有効活用する目的から墨汁入れの再利用を行っています。 4.活動の効果 本取り組みにより、以下の効果が期待できます。 マーカー資材の使用量削減・廃棄物の削減・消耗品コストの低減 また、資材を大切に使う意識の向上にもつながり、環境配慮型の現場づくりに寄与しています。 5.今後の取り組み 今後も作業品質を最優先としながら、現場で実施可能な資材の有効活用を検討し、環境負荷の低減につながる取り組みを継続していきます。	黒マーカーの購入量(=廃棄量)が前年度より2/1以下になりました
参加賞	株式会社地巧社	働き方改革の推進および社員の健康・職場環境改善への取り組み	当社では、社員が安全で安心して働ける職場環境づくりを目的として、働き方改革および健康管理、ハラスメント防止に関する取り組みを実施しています。 まず働き方改革の取り組みとして、社員の残業時間削減を目的に毎月の労働時間を管理し、残業時間の把握と適正な労働時間の確保に努めています。労働時間の見える化を行うことで業務の効率化を図り、長時間労働の抑制に取り組んでいます。 また、ハラスメント防止対策として社員教育を実施しています。パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、カスタマーハラスメント等に関する教育動画を視聴し、その後理解度確認のための問題を解く研修を行っています。研修終了後には修了証が発行される仕組みとなっており、【社員の受講率は100%】となっています。 さらに、夏季の作業環境改善および熱中症予防対策として以下の取り組みを行っています。 ・作業員の体温上昇を抑えるため空調服を毎年支給 ・「朝バナナ」活動に参加し、作業員全員がバナナを1本摂取 ・こまめな水分補給の徹底 ・休憩時間を決めて取得するなど作業時間の管理 ・飲料を冷やして保存できる環境の整備 これらの取り組みにより、社員の健康管理と安全な作業環境の確保に努めています。	残業時間の管理を行うことで労働時間の見える化が進み、残業時間は前年比約10%削減となりました。 これにより社員の負担軽減と働きやすい職場環境づくりにつながっています。 また、ハラスメント防止教育を全社員が受講することで、ハラスメントに対する理解と意識が向上し、安心して働くことができる職場環境の整備につながっています。 さらに、空調服の支給や水分補給の徹底、朝礼時のバナナ摂取などの熱中症対策を行うことで、作業員の体調管理意識が高まり、2025年度において熱中症災害は0件となりました。 これらの取り組みにより、社員の健康管理と働きやすい職場環境づくりの推進につながっています。

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	日高建設株式会社	温暖化による加工場温度上昇対策	近年毎年のように弊社の加工場で作業している方から「暑過ぎる」との苦情がありました。 加工場の概要：鉄骨平屋建の天井・壁共に折板張り48m*17m=846㎡ 弊社としても扇風機や開口を増やしたり強制換気したり、アイスを準備したり、休憩回数を増やしたり他にも毎年様々な対応を行ってきました。 対策案の中から、対策実施として既存建屋の屋根・壁に外部側へウレタンを吹き付け遮熱塗装を塗布する計画で決まり、2025年1月に施工完了しました。 2025年8月の加工場気温が14時時点で過去は39℃あったのが35℃になりました。 作業者からは過去より「今年は全然暑さが緩和され違う」や「入ってむっとする暑さが無い」と評価を得ました。 結果として4℃は下がっています。 工費が高額でしたが、結果としては成果があり快適職場になりました。	2025年真夏の加工場での内部の温度が-4℃程下がりました。
参加賞	株式会社阿野組	環境配慮型燃料の利用	作業所において環境配慮型燃料（K-S1）を建設機械に利用。	2025年10月～12月の使用実績 10,171ℓ ⇒CO2排出量削減
参加賞	平岩塗装株式会社	社有車からの排ガス減少。 熱中症対策。	・工事管理者に貸与している社有車をハイブリット車に順次変更している。 20台中、7台を変更済み。 ・弊社の現場に従事している社員、工具及び 弊社の仕事ししていない専属の協力会社作業員全員に空調服を支給している。	
参加賞	太陽基礎工業株式会社	山留工事におけるCo2削減工法の採用	山留工事（ソイルセメント地中連続壁工）において、セメント添加量の削減・建設汚泥発生量の削減を目的として気泡掘削工法を取り入れている。 気泡掘削工法については、SMW工法・TRD工法・CSM工法・深層混合攪拌工法等の他工種において取り入れている。 ①ペントナイトの単価が高騰したことにより、起泡剤・消泡剤の薬剤単価と同等となったためコストメリットは無いが単価差が生じなくなった。 ②ペントナイト使用量を削減し気泡を添加することにより使用水量の削減・気泡を最終的に破泡させることにより体積収縮を生じさせて排泥量を削減する。 ③セメント固化材の使用量を削減することにより、生産時のCo2発生量を低減する。 ④排泥量を削減することにより運搬車両を低減できるため運搬時のCo2発生量を低減する。 ⑤気泡工法については、戸田建設様 技術開発統轄部 技術研究所 社会基盤再生部様にご協力をいただいております。	SMW工法では、戸塚シールド、早稲田大学現場にて採用いただきました。 深層混合では、神崎にて採用いただきました。 TRD工法においては近年は実施しておりません。
参加賞	ミネ工業株式会社	外国人労働者のための配慮	外国人労働者のための配慮 外国人労働者への配慮・支援内容 1生活環境の整備と円滑なコミュニケーション ・多言語による情報提供：寮内の掲示物やごみの分別ルール等に母国語翻訳（ベンガル語等）を併記し、視覚的にわかりやすい表示を作成・掲示しています。 ・重要書類の英語併記：雇用契約書や給料明細は現地で共通言語として理解されている英語での作成を徹底し、労働条件への相互理解を深めています。 ・マンツーマンの生活指導：入寮後約1ヶ月間、弊社従業員が寮で共同生活を送り、日本の生活習慣やマナーを直接指導することで、早期の環境適応をサポートしました。 2教育・スキルの向上支援 ・資格取得の推進：母国語または英語による講習を全面的にバックアップしています。 ・日本語教育の実施：日本語検定を受けたい者へ合格をめざし従業員が講師となり学習支援も致します。 3地域社会との共生・防犯対策 ・地域行事への参加：町内会イベント等へ実習生と共に参加し、近隣住民の方々と交流を通じた相互理解を促進しています。 ・災害時の協力体制構築：地域の防災訓練やコミュニティへの参画を通じて、災害発生時における避難ルートの確認や協力体制を周辺地域と共有しています。	1彼らのまじめな作業姿勢や礼儀等高い評価を頂いた。（地域の方より） 2資格取得や日本語教育に意欲的に取り組んでいる。 3生活面での不安が軽減されたことで、仕事に集中できる環境が整った。
参加賞	株式会社川口建設	コンピュータ自動型枠加工システム導入による省力化と生産量増加	当社工務部（型枠工事）において、従来手作業で行っていた型枠部材加工について、コンピュータ自動型枠加工システム（TADAC）の導入による工場化に取り組んでいる。 加工帳作成ソフトで作成したCADデータと加工機とのインターフェイスを構築することで、データをもとに加工機が自動操業する。	本年度は導入準備および試験運用の段階であるが、設備導入前の作業時間が84時間に対し、導入後の作業時間は18.5時間となり、導入により65.5時間の短縮（省力化指数0.99）と高い効果が期待される。これにより現場作業員が加工のために現場を離れる必要がなくなることで、作業の連続性が確保され、施工効率の向上が見込まれる。 また、本取り組みにより生産性の向上が見込まれることから、労働生産性の年平均成長率が4%を超えることが出来るものと考えられる。 本格的な運用および効果については、来年度以降に報告予定である。 この活動結果のポイント 本取り組みは、型枠加工工程の自動化・工場化により、省人化と生産性向上を同時に実現するものである。さらに、部材加工の大量生産が可能となることで業界内の協力体制の構築を促進するとともに、型枠職人の働き方の改善や業務の魅力向上を通じて、入職者の増加にも繋げる。 また、加工精度の向上による手直し作業の削減や廃材ロスの低減、資材運搬の効率化などにより、環境負荷低減も期待できる取り組みである。
参加賞	アイカテックエンジニアリング株式会社	暑さ対策	暑さ対策で空調服を社員に支給し、着用させた。 暑さ対策でOS-1を購入し、冷蔵庫に入れいつでも飲めるようにした。	2025年1月～2025年12月の1年間
参加賞	株式会社福田組	環境配慮型燃料 K-S1 の使用	軽油使用時K-S1を使用しました。期間は2025年11月20日～2026年1月20日迄となっております。 軽油使用料は4021.5Lに対して1000分の1入れて作業を行いました。使用感と致しまして燃費が向上したと思われまます。実感と致しまして5分の1は軽油使用料が減ったと思います。以上報告終わります。	
参加賞	株式会社石井興業	主に環境活動 ・全社員参加の環境配慮型リサイクル・リユース活動 ・「廃食用油の回収によるSAF（持続可能な航空燃料）」推進活動	1・社内リサイクルとリユース 事務所内で使用するプラスチック製品や紙、金属類のリサイクル。特にクリアファイル等は再利用資源集積センターへ送り、リサイクル率の報告を毎月行っています。（※リサイクル達成率の報告と共有）また、現場資材も閉居配慮型資材グリーンインフラ素材を使用して廃棄物が出来るだけ出ない工夫を実施。 2・省エネルギーの実践 所内全ての照明をLEDへ変更、グリーンカーテンを計画的に生育し、オフィスの断熱化を強化して冷暖房効率を上げ、エコフレンドリーな空間を作り視覚的にも癒される職場環境を作りました。 3・使用する車両系建設機械・揚重機械・トラック・ダンプに関しても、K-S1（燃費向上により使用する燃料を削減し、排出ガスの有害成分を削減する燃料促進剤）を使用し環境性能に優れた燃料で稼働使用しています。環境負荷低減を図る為、オイル・グリース・トン袋・防災シート類も環境性能に優れた次世代素材を利用するように発注し継続使用しています。 4・「廃食用油の回収によるSAF（持続可能な航空燃料）」推進活動 成田国際空港に接する企業である当社は、早く環境サステイナブルに着目し、作業員のみならず近隣の方にもお声がけし、「廃食用油の回収によるSAF（持続可能な航空燃料）」推進活動を継続しています。現在、奇しくもイラン情勢の影響を受け、国内エネルギー循環社会の早期達成が重要視されています。 「廃食用油を弊社が回収拠点」になることで、建設にかかわる全ての方々にこの啓蒙活動を行っています。会社へ廃食用油の回収Spotを設置し、啓蒙活動の勉強会を開く等して、多くの方にご参加を頂いています。 現在は、皆様から集めた廃食用油を京都のSAF精製センターへ送り、成田国際空港でも搭載使用するSAFへの貢献を継続し行っております。（※回収状況等の参考写真を添付致します）	・継続的なエコワーク取り組みにより、本年度は使用電力量5%減（年間）、（紙を主体とする）事務用紙使用量4%減、（年間）、水道利用ゼロ、（井戸水・雨水利用）を達成しています。 ・環境活動を作業員・協力会社共に継続的な連帯感が出来たと考えています。特に廃食用油回収等が作業員の連帯感も生まれ、成田空港関連企業の客先にも大変高評価を頂いております。
参加賞	株式会社藤谷	熱中症対策	熱中症対策として ①熱中症発生時の対応措置マニュアルの作成 ②カナリアウォッチの支給（人それぞれに潜む暑熱下でのリスクを、アラームとLEDで事前通知） ③交代で休ませ社員の体調管理を徹底 ④熱中症予防管理者教育を全員受講	熱中症災害発生0件を達成
参加賞	株式会社アスワン	エコに対して意識付の活動	①ウレタン車のトラックのタイヤをエコタイヤに変更 ②社用車を全てハイブリット車への順次変更2024年全車実現へ(5台) ③ウレタントラックのハイブリッド車への変更の検討2030実現へ(6台) ④ウレタントラックのシート型機車からアルミ箱型車への変更に(外部へのコンプレッサーの音の軽減化) ⑤産廃ヤードでの細部まで分別する意識を全作業員で共有する事	①ウレタントラックの燃費に繋がりました。 ④外部に漏れる特有の音（ブジュン・ブジュン）が軽減されました。 ⑤産廃ヤードでの分別が当たり前の事だと意識づけ出来てきたと思います。

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社日興社	プライマー並びにトルエン使用に伴う大気中に放出する総量の把握	シーリング工では有機溶剤を外部足場上で使用することが多いため大気中に化学物質を放出している。対策は特になく、手戻り等による余分な使用を避ける程度でしか対策はなく、どの位の放出量なのか把握は難しい。弊社は当初より毎期どの程度の化学物質を放出しているかその量を把握している。本来プライマーの使用量は売上比に比例するはずだがなかなか明確な傾向は見られなかった。このため売上に関係なく大気放出の「絶対量」を把握することで作業員の「環境への負荷低減」の意識を高める指標として使用している。	非定期ではあるが数値の連絡を作業員に行なっている。
参加賞	株式会社朝日組	(1)環境関連 (2)社会関連	(1)環境関連 ①省エネルギー化:電気使用量1%削減(本社) ②紙の使用量:使用量2%削減(本社) ③啓発活動:弊社及び周辺地域の清掃(月1回) ④京都市第一市場整備工事(青果棟1期) 機械土工事施工にあたり作業期間(2025年1月6日～2025年12月26日) 使用軽油41,509.5リットルに対し燃料促進剤K S-1を42.14リットルを使用した これにより燃費削減が約10%、4,200リットルまた排出二酸化炭素CO2の約7%7,500kgの削減が出来た、これ以外にも粒子状物質、窒素酸化物の排出を減らすことが出来た (2)社会関連 ①社員の離職率削減及び新規入職者を促すため、2024年7月1日から土・日・祝日を完全閉所日としこれをもとに作業計画等の打合せを実施している (中途採用者2名 高卒予定者1名) ②社員全員に熱中症対策として6月初頭に空調服を無償支給し、関係協力会社に対して塩分タブレットを無償で各社に配布し注意喚起を行って入る (昨年度においては熱中症は発生しなかった)	電気使用量・紙使用量・啓発活動:各項目目標達成(別紙資料添付) 燃費削減・二酸化炭素削減:各項目効果を確認(別紙資料添付)
参加賞	高砂熱学工業株式会社	常駐事務所の環境整備・省エネルギーによるCO2削減	工事事務所の屋根が金属折版製のため、断熱性能が低く夏は暑く冬は寒い環境であり、労働効率低下だけでなく、電気使用量増加の要因となっていた。 折半屋根専用の断熱材採用した、環境改善 & 環境負荷低減を同時に達成した活動を紹介いたします。	夏期室温:平均△4℃、冬期室温:平均+3℃の効果認められた。 前年2024/4～12と今年2025/4～12の電気料金△95,000円(20円/kWh換算で△4,750kwh) (期間電気料金単純比較なので効果の削減力ではありません。)
参加賞	姥名建設	使用済み型枠Pコンのリサイクル事業の取組 第2弾 【Pコン循環利用プログラム・温室効果ガス削減量】	【第4回までの取組】 SDGs達成に向けた取り組み 型枠Pコンリサイクルの取り組みについて 型枠工事に使用不可欠な金物Pコン。従来使用済みPコンは、現場から資材センターへ返却され、軸(鉄)とPコン枠(プラスチック)に分別して、枠の部分は産業廃棄物として処分を行っていました。(年間約72,000個、会社によって違いはありますが、Pコンのプラスチック枠の原料は化石燃料です。ゴミとして焼却処分すると大量の温室効果ガスが排出されます。) そこで、Pコン取引先の岡部株式会社様の提案にてEcoPコンの取り組みを説明をして頂き、つかう→あつめる→リサイクル→またつくる、にてSDGsやカーボンニュートラルという背景のもと、弊社も少しでもリサイクル事業の一環になればと考え、岡部株式会社様と共に取り組みに賛同しています。 つくる責任、つかう責任として、Pコンにはプラスチックと鉄が使われています。どちらも有限の天然資源です。リサイクルをして可能な限り有効活用しています。 又、廃棄された場合にいきつく最終処分場は残存年数が問題となっており、処分場の負担軽減にも貢献しています。	対象期間 : 2025年1月1日～12月31日 Pコン購入個数 : 72,000個 → 158kg-CO2の削減 回収数量 : 100,000個 → 900kg-CO2の削減 合計 : 1,058kg-CO2の削減 ※回収数量は、フレコンバック1袋あたりの想定投入量1万個をもとに計算しております。 ※上記温室効果ガス削減量は第三者機関の評価を受けたものではありません。又、参考値としてあらわすものであり、カーボンオフセット量を貴社に移転するものではありません。  【温室効果ガス排出量評価方法】 現状、Pコンのライフサイクル全体での温室効果ガス排出量を算定する方法は定められていない為、弊社独自で評価方法を作成しております。下表におけるPコンのライフサイクルの中で、太枠で示す項目を循環利用によって環境負荷が増減するものとして個別に評価し、合算することで温室効果ガスの削減量としております。
参加賞	富士鋼材株式会社	環境活動	●省エネルギー・働きやすい職場・環境配慮の観点から全社員に年1回ポロシャツを配り、通年ノーネクタイ、ポロシャツ通勤を認めている。 ●鉄筋メーカーが推奨しているグリーン鋼材の採用。	●ノーネクタイ・ポロシャツ通勤:間接的に環境配慮に貢献していると思われる。職場の冷房費節約。 ●グリーン鋼材:間接的に環境配慮に貢献していると思われる。
参加賞	株式会社三友	@Panelを用いてALCパネルの拾い出し時間の短縮&精度UPの実践	【取組内容】 従来は、パネルの形状・数量・寸法を手作業で拾い出していたが、これらの作業をすべて専用ソフト上で自動化できるよう改善を行った。さらに、CADで作成した施工図を@Panelへ変換し、同ソフト内で拾い出し作業が可能となるよう設定を整備した。また、これまで手計算していたアングルの延べメートル数や面積(m <sup>2</sup> )の算出についてもソフトで対応できるようにしたことで、大幅な時短につながった。	【成果】 改善内容を実際の業務で試行したところ、作業効率が大きく向上することを確認できた。そのため、この仕組みを全社的に活用することを目的として、各営業所へ1台ずつ同ソフトを導入し、環境の標準化を実施した。 【効果】 ・手拾い作業の削減による作業時間の短縮(半日から1日かかっていた作業が、30分ほどで完了) ・拾い出し精度の向上(1年間を通してミスがゼロ) ・作業方法の統一による業務効率化 ・各営業所での共通ツール利用による生産性向上
参加賞	株式会社三陽	総合建設業における品質マネジメントの運用と溶接特殊工程の品質管理の取組	当社では、溶接業務の特殊工程における品質の確保および品質管理不正の未然防止を目的として、2024年6月にISO9001の考え方を取り入れた品質マネジメントシステム(QMS)を構築した。 2025年はその運用・定着の一環として、総合建設業としての品質管理体制の整理を行うとともに、溶接業務の特殊工程を含めた品質マニュアルの整備を行い、2025年4月11日に制定した。 また、マニュアルに基づき、作業手順や検査基準、記録方法等を整理し、必要な文書や記録の作成を進めている。これらの文書は社内でも共有し、業務の際に確認できるようにしている。 加えて、実務の中で適宜見直しを行いながら、運用している。	本取組により、溶接業務における作業手順や品質確認方法の整理が進み、業務を一定のルールに基づいて実施できるようになっている。また、文書や記録を整備・共有することで、施工内容の確認がしやすくなり、品質管理の見える化につながっている。さらに、マニュアルに基づいた運用を行うことで、業務の属人化の防止や品質管理不正の未然防止に向けた取組として継続している。
参加賞	株式会社福永建設工業	環境配慮型燃料K-S1使用による燃費向上及び有害排出ガス成分(CO2、NOx、PM等)の削減。	自社所有の10tダンプ4台の燃料(軽油)給油時に、K-S1を給油量の1,000分の1程度添加する。 2025年間使用量(ダンプ4台あたり) 軽油・・・ 70,714.0ℓ K-S1・・・ 70.714ℓ	K-S1添加後、平均燃費約8.5%向上(当社比)。 有害排出ガス成分(CO2、NOx、PM等)の削減。 燃費向上及び故障頻度低下によるコストダウン。
参加賞	壺山建設株式会社	軽油代替燃料の使用	使用機械 発電機 13kw、発電機 25kw 2台で使用した。 使用期間 令和7年2月～12月 使用量 約500リットル(45リットル/月) 使用上の問題点、注意点 軽油を間違えて入れてしまわないよう注意が必要。その点の明示と周知徹底を行う事が重要。 発電機に代替燃料を使用した。リース会社の方で代替燃料の使用可であるところが少なかった。 今後の拡大対策 代替燃料を使用してもいい機械や発電機がリース会社の方で増えてきたら良い。 見積り時に単価に反映することが重要	代替燃料B5 500リットルの使用により、CO2を5%削減の効果があった。
参加賞	栗田建工株式会社	サンクスカード(ピアボーナス)による職種間評価の可視化と働きがい向上	弊社は社員数が70名を超え、従来のマネジメントでは個々の働きや貢献に十分に目が行き届かないという課題が顕在化していました。特に、職人や施工管理者は成果が可視化されやすい一方で、工場・運搬・図面・事務などのサポート部門は評価が見えにくく、モチベーション維持や公平な評価に課題がありました。 そこで、社員同士が日常の業務の中で感謝や称賛を送り合い、その行動を可視化できる仕組みとして、ピアボーナス制度「サンクスカード」を導入しました。 導入にあたっては複数のサービスを比較検討し、コスト、操作性、制度設計の柔軟性を重視した結果、株式会社オーケーウェブのGRATICAを採用し、2025年8月より運用を開始しました。 本制度では、社員一人ひとりに毎週20ポイントを付与し、感謝や称賛とともに自由に他者へ送ることができます。ポイントは1ポイント=10円としてギフトに交換可能とし、評価が目に見える形で還元される仕組みとしました。また、送信者にも同ポイントを付与することで、称賛行動そのものを評価する仕組みとしています。 運用においては、以下のルールを設けています。 ・公開カードは週5件までとし、質の高い称賛を促進 ・具体的かつ前向きな内容を必須とするガイドラインを設定 ・不正利用(相互付与等)防止のため管理体制を整備 ・グループ管理者による定期的な運用確認とフィードバック さらに、月1回の幹部会議にて運用状況を確認し、好事例の共有や課題改善を全社に展開することで、継続的な制度の定着を図っています。	導入後、社員間のコミュニケーション量が増加し、特にこれまで評価が見えにくかった工場・事務・運搬部門において、カードの送受信が活発化しました。コメント内容から具体的な行動が可視化され、「どのような行動が評価されるのか」が明確になり、社員のモチベーション向上につながっています。 また、カード送信数が多い社員は受信数も多い傾向が見られ、良好なコミュニケーションが組織内で循環していることが確認されています。 本取り組みは、職種間の評価格差を是正し、働きがいの向上と人材定着に寄与するものであり、建設業における持続可能な組織づくりに貢献する活動と考えています。 今後の課題 一部のグループでは活用が進んでいないため、管理者を中心に利用促進を図り、全社的な活性化を目指します。また、期間限定の特別ポイント付与や特別ギフトの導入など、制度の魅力向上にも取り組まします。 さらに、称賛行動が組織活性化に寄与する点を踏まえ、今後は人事評価指標への反映も検討し、より持続的な組織運営につなげていきます。

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	戸田道路株式会社	Co2削減に向けた取り組み	<p>①2025年より順次ガソリン車をハイブリッド車に入れ替え          本社使用リース車 3台中3台をハイブリッド車に入れ替え          作業所使用リース車 18台中3台をハイブリッド車に入れ替え</p> <p>②公共工事において、使用機械に環境配慮型燃料（K-S1）を使用          2025年実績：5現場：約2,400kg-CO2のCO2 を削減</p> <p>③東京都発注工事2現場において、現場の仮設ハウスに「ソーラーシステムハウス」を使用          2025年7月～11月実績：約4,300kg-CO2のCO2 を削減</p> <p>④東京都発注工事(喜多見舗装)HTT取り組みにより          ・電動ランマー・プレート 636.5kg-CO2          ・ソーラー式規制車 601.6kg-CO2          ・バッテリー式バルーンライト 1,204.48kg-CO2          合計 約2,440kg-CO2 を削減</p> <p>⑤東京都発注工事2現場(光が丘舗装・大泉舗装)HTT取り組みにより          ・ソーラー式規制LED看板：約450kg-CO2のCO2 を削減</p>	昨年1年間のCO2削減量：上記②～⑤の合計 約9,590kg-CO2 ※ガソリン車をハイブリッド車に入れ替えたことによる削減量は除く
参加賞	株式会社テクノ 菱和名古屋支店	環境保全を意識した取り組み	ワークフローシステムの導入 システムを導入することにより、社内申請書類を電子化し、多数の書類のペーパーレス化を実現各作業所にてシステムを利用することにより書類作成提出の簡略化	・紙に関するコスト削減 ・環境負荷の低減 ・労働時間の削減
参加賞	ナカ工業株式会社		<p>①2025年12月に工場屋根へPPAモデルによる太陽光発電設備を導入した。          電力使用量の20%以上（予測）をクリーンエネルギーで賄う事が可能となった。</p> <p>②工場内にエリア空調を段階的に設置し、夏季の暑さ対策を進めている。</p>	①12月度は電力使用量の約15%が太陽光発電での電力を使用した。 ②熱中症発症者0
参加賞	株式会社中電工	循環型社会の実現に向けて、廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクル等の省資源活動の取り組み	処分契約に定める再資源化が実施されるように、継続的に分別排出を推進した。 また、プラスチックごみ削減に向けた取り組みとして、イベント配付用グッズ等の環境配慮として、紙製クリアファイル、バイオマスプラを使用したフリクションボールを製作し、各種イベント、事業場での営業活動に使用した。	産業廃棄物の再資源化率(全店の2024年度実績)：67% (2024年度は再資源化の困難な有害物質が含まれる汚泥を処分したため、再資源化率が低下した) 紙製クリアファイル：7,000枚 バイオマスプラを使用したフリクションボール：2,000本
参加賞	住吉工業株式会社	環境配慮型燃料（GTL燃料）の導入によるCO2排出量削減の取り組み	<p><b>【活動内容】</b></p> <p>① GTL燃料の試験導入          一部現場において、軽油の代替としてGTL燃料を使用          ・重機運用期間：約3か月          ・重機稼働時間：約400時間</p> <p>② 運用状況の確認          ・燃費・作業効率への影響を確認          ・エンジン不具合や始動性などの稼働状況を検証</p> <p>③ 従来燃料との比較          ・軽油使用時との燃費・作業性の差を比較          ・継続利用の可能性について評価          既存の重機・車両をそのまま活用し、追加設備なしで導入可能であり、本検証時はリース会社協力の元、リース機械にて検証を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約3か月（稼働時間：約400時間）にわたり運用を実施</li> <li>・従来の軽油使用時と比較し、燃費差は±5%以内とほぼ同等</li> <li>・作業効率への影響は見られず、通常運用が可能であった</li> <li>・エンジン不具合は発生せず、始動性等も含め問題なし</li> </ul> <p>本検証の結果、既存機械の改修を伴わずに導入可能であり、運用面での支障も確認されなかったことから、GTL燃料は軽油代替としての実用性があると判断される。</p> <p>一方で、軽油と比較して燃料コストが高い傾向にあるため、現時点では適用範囲の選定が必要である。</p> <p>今後は、適用現場の拡大を図るとともに、CO2削減効果については理論値ベースで約5～10%の削減が見込まれるため、本検証における定量的評価は今後の課題とする。</p>
参加賞	不二サッシ株式会社	排気ガスの排出量削減	フロア毎の搬入ではトラックの台数が増え排気ガスの排出量も多くなってしまいます。 その為、可能な範囲での一括搬入を行いトラックの台数削減に努めました。 また広島市内の職人が当現場を担当しましたが、広島市内から福山までの通勤時でもなるべく職人同士の乗り合わせを推奨し通勤車両の削減にも協力してもらいました。	排気ガスの排出量に関して目に見えてわかる効果はわかりませんが、職人の交通費、工場からの搬入台数も削減出来ており、少しでも排出量を削減出来たのではないかと思います。
参加賞	イワキ産業株式会社	職場環境	事務所内につきまして空気清浄機(7ドック 24帖用)を10月に新たに導入。 冬場に向けてインフルエンザ、コロナ、風邪の対策として2台導入しました。 また、昼食等の臭い対策も兼ねています。	県内インフルエンザ警報が出ている中、弊社社員はインフルエンザ、コロナに掛かることはなかった。 また、休業するような風邪もひいていません。 臭いも余り気にならないようになりました。
参加賞	遠藤硝子株式会社	エコアクション21（取り組み 15年目）に基づく、環境保全活動を実施し、その取り組みより真の経営改善を目指す	<p>取り組み15年目の「エコアクション21」に基づく、環境保全活動の継続を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆エアコン設定温度の厳守と、ON、OFF時間を決めた</li> <li>◆エアコン、扇風機の無人時のOFFルールを設定した</li> <li>◆エコ型作業服（ベスト式空調服）の導入</li> <li>◆前日までの配車予定の確定により、同方向への乗り合い乗車の推進</li> <li>◆荷を積んでいない場合の車使用の削減</li> <li>◆エアコン・ガソリン使用量を、公開し認識することでの、意識の向上</li> <li>◆水の無駄使い防止の、表示を行った</li> <li>◆WEBを活用した、環境配慮型 自社製品の営業の促進</li> </ul>	エコアクション取り組み開始後、確実にCO2削減が、数値として表れている。 今後は、更に環境配慮型製品の営業促進により、社会貢献に努めたい。
参加賞	川本工業株式会社	法規制の改正等、業務に関わる情報の水平展開	業務に関係する法規制の改正等を不定期で技術系社員に向けて配信した。	工事に関連する法規制の改正等に関する情報を配信することで、法令順守に寄与している。
参加賞	株式会社石崎本店	【環境関連】太陽光発電の有効活用による空調設備設置及びCO2削減 【社会関連】従業員働きやすさ対策、夏季熱中症対策の実施他	<p><b>【環境関連】</b></p> <p>①本社屋太陽光発電の有効活用          受電設備の変更により、隣接する製造部門への電力の供給を可能にし、長年の課題であった工場部門の夏季熱中症防止対策の目的で空調設備を導入した。          2024年1～12月 太陽光発電量 35,730kwh 2025年1～12月 発電量 101,471kwhと2.8倍の増量となり、空調設備の消費電力を十分に賄い、トータルCO2排出量も減少させることが出来た。</p> <p>②社有車の燃料消費削減への取り組み          運転管理日報による車両毎の燃費効率の把握と実績管理に実施          ハイブリッド車への変更の促進 2025年度 3台の乗用車を転換          日々の運転計画を共有して同乗移動や遠方への公共交通機関利用の奨励を実施</p> <p><b>【社会関連】</b></p> <p>①社員福利厚生の充実          快適な職場環境づくり 定時退社日（1回/週）の完全実施 フリーアドレスによる社員間コミュニケーションの充実 グループでの懇親会費用の会社負担          健康促進 保健師による喫煙者への禁煙プログラムの実施費用会社負担</p> <p>②ハラスメント研修の実施          全管理職・全社員対象のハラスメント研修の実施 2～3回/年</p> <p>③夏季熱中症対策の実施強化          空調服の支給更新 全社員・協力業者に熱中症対策アラートハートウォッチを支給          新入社員・高齢者向けの熱中症対策教育の実施など</p>	<p>全社CO2排出量 2024年 533.33t-co2 2025年 496.49t-co2 ▲6.9% 削減</p> <p>2025年 離職率 3.6% 建設関係 全国平均9～10%</p>
参加賞	小松ウォール	中長期的な企業価値向上のための基盤づくり	<p><b>【環境関連】</b></p> <p>SBT認定と活動の推進（スコープ1、2について2023年度までに2019年度比50%削減）          ・2023年4月より本社及び工場の電力を北陸電力株式会社の提供する「グリーン特約（かがやきGREEN）」に切り替え、2024年からは全国の拠点も再エネ由来の電気に切り替えを実施しています。          また、2025年からは拠点の電気のうち切り替えができなかった拠点分の非化石証書を調達しました。          ・全国で保有する社有車（全396台）のハイブリット化を拡大させています。</p> <p><b>【社会関連】</b></p> <p>2023年7月より有志メンバーによる「女性の活躍推進WG」を発足し、2025年度も継続して活動を行いました。主な活動内容は以下の通りです。          ・意識改革とキャリア支援          女性管理職3名とWGメンバーによる「女性管理職座談会」を開催し、管理職の役割への理解を深め、自身のキャリアを考える機会を創出しました。また、外部講師を招いた勉強・意見交換会を実施しました。          ・制度の周知徹底          有休、積立休暇、生理休暇、男性育休、配偶者出産休暇などの特別休暇について、全従業員への周知と積極利用を促す社内報記事をWG主導で作成・公開しました。          ・健康支援          健康推進委員会と連携し、「女性の健康」に関するセミナー（講義および実技）を2日間にわたり開催しました。</p>	<p><b>【環境関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネ由来の電気の切換え達成率：本社・工場100%（2023年）、拠点66.1%（2025年）</li> <li>なお、拠点の残り33.9%については非化石証書を調達し、スコープ2はCO2排出量が0になります。</li> <li>・ハイブリット車の切換え達成率：396台中、185台切換え済 46.7%</li> </ul> <p><b>【社会関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休暇制度の認知向上と利用促進</li> <li>社内報による休暇制度の解説・周知により、制度に対する理解が深まり、心理的なハードルの低下に寄与しました。</li> <li>・ネットワークの構築と孤立防止</li> <li>部門や建屋の垣根を超えた交流により、特に女性が少ない現場や閉鎖的な部署における女性社員同士の接点が生まれ、悩みや課題を共有できる場として機能しました。</li> </ul>
参加賞	日本板硝子S&S株式会社	緑化運動	事務所前の花壇+プランター お毎年 花、野菜を植えて育てている	ゴーヤ、ししとう、万願寺唐辛子（社員で分けて食べました） チュウリップ、ひまわり（良い保養になりました）

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	開成鉄筋株式会社	環境配慮と業務効率化による持続可能な取り組み	成田工場において太陽光発電を導入し、使用電力の一部を再生可能エネルギーで賄うことで、CO2排出量の削減に取り組んでいる。また自然災害発生等による停電時においても電力の確保が可能となり、事業継続および非常時対応力の向上に寄与している。社用車としてハイブリッド車（新型プリウス）を導入し、燃費性能の向上による燃料使用量の削減およびCO2排出量の低減を図っている。環境負荷の少ない車両の使用を推進することで、環境配慮型の取り組みを実施している。iPadおよびタブレットPCを活用し、打合せ資料や自主検査記録を電子化することでペーパーレス化を推進している。これにより紙使用量の削減による環境負荷低減に加え、情報共有の迅速化および記録管理の効率化を実現している。ペットボトルキャップの分別回収を社内で継続的に実施し、リサイクルによる資源循環の推進および廃棄物削減に取り組んでいる。また回収されたキャップはリサイクル業者へ提供し、その収益が福祉・医療支援等の社会貢献活動に活用される仕組みに参画している	各種取り組みにより、CO2排出量の削減および資源使用量の低減を実現している。特に太陽光発電およびハイブリッド車の導入によりエネルギー使用の効率化が図られ、環境負荷低減に寄与している。またペーパーレス化の推進により業務効率の向上、印刷コストの削減を達成しており、エコキャップ回収活動を通じた社会貢献意識の向上にも繋がっている
参加賞	ダイダン株式会社東北支店	「ダイダンの森宮城」整備事業	昨年に引き続き宮城県の県有林を借受け、「ダイダンの森宮城」と称し、森林の育成活動を継続しております。特定非営利活動法人「宮城県森林インストラクター協会」様とともに、植樹と育樹を通じ、環境省が目指している生物多様性に富むフィールドづくりや地球温暖化防止の機能を高めていくとともにクマと人が出会わないための「緩衝地帯」などの役割を担う森を目指しております。	植樹、刈払い作業を行った。
参加賞	株式会社LIXILビル札幌支店	循環型素材「レヴィア（レビア）」によるCO2排出量削減とプラスチックの資源循環への貢献	株式会社LIXILでは環境への取り組みのため、これまでリサイクルが困難とされてきた廃プラスチックに廃木材を融合した新しい素材「レヴィア」を開発しました。従来は焼却されてきた廃プラスチック、廃木材をリサイクルすることで、『レヴィア』1tあたり1.93tのCO2の排出削減に貢献します。これは廃プラスチック、廃木材の焼却時のCO2排出量に対して約82%の削減効果になります。また、自治体とプラスチック資源循環推進のためのパートナーシップ協定を結び、廃プラスチックの地産地消資源循環システムを構築するといった、自治体との連携についても取り組んでいます。製品としては舗装材のレヴィアベイス、デッキパネルのレヴィアパネルの2種類を展開しております。	
参加賞	株式会社谷協組	滞留資金を活用した及び森林整備保全活動への貢献及び間接的CO2排出量削減への貢献	弊社の滞留資金を満期時元本に応じて環境価値（J-クレジットによる排出CO2オフセット）が付与される『J-クレジット預金』（商工中金 定期預金）に預け、満期時利息を資金として北海道庁より『道有林Jクレジット』（キキタ・グリーンクレジット）を購入する。資金を循環させることにより日本各地の森林の保全活動の後押しや、適切な森林管理による温室効果ガスの吸収量増加に繋がる事業の応援を継続させていく。弊社としての実際の活動としては、2026年度に15t-CO2のカーボンオフセット取得を予定している。こちらの数字は2025年度の弊社における電気使用による排出量の半分に値し、次回のJ-クレジット預金募集の際には預入額を増額し、2027年度は約30t-CO2取得を目指す。	2025年7月10日に『J-クレジット』（商工中金）へ預け入れ、2026年7月10日満期時に5t-CO2オフセットの受取予定。また税引後満期利息約10万円を原資として北海道庁より『道有林Jクレジット』を10t-CO2の購入予定
参加賞	立川工業株式会社	ソーラー式LED・防犯カメラ使用によるCO2排出量削減（ゼロカーボン） ラベルレスボトル・エコボックス使用による廃棄物削減	【環境関連①】 現場事務所出入口にソーラーパネル式人感センサーLEDライトを設置した。 製品名：ソーラーLEDセンサーライト セバレート式エコフラッシュ（日動工業㈱） 【環境関連②】 仮囲いゲート付近にソーラーパネル内蔵型防犯カメラを設置した。 製品名：2K 3MP ソーラーセキュリティカメラ（Ctronics） 【環境関連③】 現場事務所での飲料水についてラベルレスボトル飲料水を採用した。 製品名：アクエリアス（ココロラ㈱）、おーいお茶（朝伊藤園） 【環境関連④】 現場事務所にて不要紙を回収するエコボックス（エコフィスジャパン㈱）を設置した。 ※①～④について、使用状況および製品写真を別添	①：ソーラー給電によるCO2排出量ゼロを実現。防犯性の向上。 ②：ソーラー給電によるCO2排出量ゼロを実現。防犯性の向上および作業状況の遠隔確認による施工品質維持。 ③：ペットボトルラベル由来のプラスチックごみの削減。 （概算 現場スタッフ2名×100本×ラベル重量約2g = 400g分を廃棄物から除外） ④：不要紙をエコボックスに分別し、業務期間中の不要紙をリサイクル回収。（不要紙の廃棄物ゼロ）
参加賞	株式会社AOI	外国人労働者の教育の効率化と継続的な学習の促進を目指して	外国人労働者の指導育成方法の見直し *作業手順書の母国語翻訳版を配布し安全教育を実施 ・監理団体に翻訳を依頼したが専門用語や日本語と母国語における言い回しの違いにより伝わりにくい箇所が発生するため、実習生自身が翻訳を行いより正確で理解しやすい表現に補足・調整した *作業手順の教育動画を制作し教育の効率化と学習の定着と自律的な学習の促進を図る ・教育動画は作業手順書の翻訳版を基に正確かつ分かりやすく伝えることを最優先に安全に作業を行う注意点と基本的な作業手順について視覚的、聴覚的に理解しやすい構成とした。 ・専門用語を覚えることも必須のため画面表記は日本語、音声は母国語で動画を作成。 ・安全教育は教育動画と作業手順書（翻訳版）を併用し実施。	活動効果 ・実習生と共同で発表資料を作成することで、現場目線の具体的な内容となり指導のポイントがより明確に伝わり、実習生自身の理解も深まり後輩指導力の育成に繋がった。 ・繰り返し視聴できるため人件費（講師）削減と学習時間の短縮になった ・先輩が後輩に教育・指導を行うように責任感の向上と自律的な学習の促進に繋がった ・不明点を気軽に質問できる環境整備ができ主体的に質問や確認を行う姿勢が見られるようになった。 ・実習生の主体的な発言や確認が増え、日本人社員とのコミュニケーションも活発化した。その結果、職場全体での情報共有が進み、社員一人ひとりの責任感や安全に対する意識の向上に繋がった。
参加賞	株式会社滝沢重機興業	公共交通機関活用によるCO2削減（77タークレン回送数削減） 2025年継続テーマ	公共交通機関活用により 77タークレン回送数を減らすことでCO2の排出量を削減する（2025年継続テーマ）	
参加賞	株式会社タケエイ	継続的な再生可能エネルギーの利用に取組み、全社的なCO2削減による環境負荷の低減に貢献する。	*収集運搬車両のEV化試験運用 収集運搬用トラックのEV化試験運用をするために、 ①充電ステーションの設置、また、従来の太陽光発電設備（2023年設置）では発電、蓄電能力が不足するため、 ②太陽光発電設備、③蓄電池設備を設置した。 能力は、 - 太陽光発電パネル：70.0kW（両面パネル100枚） - 蓄電池：261kWh - 充電器：50kW（急速） 建物の屋根は既存の太陽光パネルを設置しているため、屋根設置ができいない状態にある。そのため、今回のパネル設置は野立とし、両面パネルを採用して、護岸側に設置することで、発電効率を高めるようにしている。蓄電池は中規模のものを設置して、EV数台の充電が賄える容量としている。更に、太陽光パネルと蓄電池は従来の発電蓄電システムと統合させることで、EVIに電力供給しないときには、事業所内にて自家消費できるようにしている。 3.◎活動効果 前述の通り、収集運搬車両のEV化試験運用をするにあたり、物流基地の発電蓄電システムをアップグレードさせた。イラストに示す通り、EVへの給電能力が向上したのみならず、事業所としての自家消費能力も向上させることができた。そのため、物流基地単独での現在の脱炭素量は年間55,539 kg-CO2になる。また、太陽光パネルは余剰発電があるため、日中にEVへの充電を優先的に行うことで、更なる脱炭素効果が得られる。	物流基地単独で脱炭素量：年間55,539 kg-CO2 を達成。
参加賞	東光電気工業株式会社	残業時間の削減につながる活動	・残業時間の削減 ①2025年度より各支社に工事管理部を新設 業務タスクを、フロント、ミドル、バックの3つに区分けし、現場で行っていた業務（フロント）の一部を工事管理部（ミドル）に業務を移管した。 具体的には、見積書作成、安全書類作成、査定書作成、施工図修正等 ②繁忙現場への本社工事管理部による業務支援 新築大型現場や初代理人担当現場等繁忙が見込まれる現場に対し、本社工事管理部にて業務支援を行い担当社員の残業軽減を行った。 具体的には、計画書作成、施工図作成、試験調整・送電対応等 ③本社管理による社員残業時間の管理 毎月社員の残業時間、繁忙現場をモニタリング。36協定を超過する恐れがある場合や人員不足が見込まれる現場に対して本社工事管理部より業務支援を行った	フロント担当社員とミドル担当社員の残業格差が前年度より10%縮まった（減少した）

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	不二サッシ株式会社	低炭素アルミ建材による排出量削減と資源循環促進	<p>建築物のライフサイクルカーボン評価制度（創設）を含む建築物省エネ改正法案が、2026年3月27日に閣議決定された。建築物LCCO<sub>2</sub>評価制度（資材製造から解体までのライフサイクル全体の省エネ・省資源・脱炭素の取り組みを評価する仕組み）の2028年施行を目指し、業界全体で急速に準備が進んでいる。</p> <p>当社はこれらの建築業界の脱炭素ニーズに応えるべく、2025年度に低炭素アルミ建材「Reサッシ」シリーズを展開した。更に本シリーズの内、アルミリサイクル率100%を特長とする「Reサッシ R100」を用いて、解体現場で発生したアルミリサイクル材より製造したサッシを納入する、水平リサイクルの実証も実施した。</p> <p>1. 低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」、「Reサッシグリーン」展開 アルミ新地金は通常、アルミナからの製錬電解時に大量の電力を消費し、CO<sub>2</sub>を大量に排出してしまう。 「Reサッシ R100」は、製錬電解を経ず直接溶解・鋳造できるアルミリサイクル材を100%原料に用いて製造するアルミ材であり、通常の新地金から製造した場合に比べて81%ものCO<sub>2</sub>削減効果が見込める。 「Reサッシグリーン」は、製錬電解時の電力を化石燃料由来から再生エネルギーに置き換えることで、通常の新地金と同等のトレーサビリティを保ちながら同時に50%のCO<sub>2</sub>削減も実現できるアルミ材である。 当社は2025年度より千葉事業所の製造工程改造に着手し、建材を全て（一部例外）Reサッシ R100またはReサッシグリーンで供給可能な体制を整えてきた。Reサッシ R100では従来品同等価格帯も実現。</p> <p>2. 製品LCCO<sub>2</sub>の第三者検証「SuMPO EPD」取得 当社は上記 Reサッシ R100、Reサッシグリーンの両方で、製品LCCO<sub>2</sub>の第三者検証「SuMPO EPD」を取得した。これにより、顧客の調達由来CO<sub>2</sub>削減に関し信頼性の高い情報を提供可能となった（数値は後述）。</p> <p>3. Reサッシ R100 &amp; 水平リサイクル実証 当社は、建物解体時に発生した廃サッシ中のアルミを原料としてReサッシ R100を製造し新築現場に納入する、アルミ水平リサイクル「サッシ to サッシ」の実証に成功した。本取組は、脱炭素のみならず、サーキュラーエコノミー促進および日本のベースメタル確保にも資するものである。今後も取組を継続・展開し、建築業界の持続可能性ニーズに応えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Reサッシ R100：アルミ材1kgあたり2.9 kg-CO<sub>2</sub>eq、一般新地金製材比81%のCO<sub>2</sub>削減効果</li> <li>→千葉事業所の鋳造アルミリサイクル率=100%達成（参考：昨年度実績 70%）かつ従来品同等価格</li> <li>・Reサッシグリーン：アルミ材1kgあたり7.5 kg-CO<sub>2</sub>eq、一般新地金製材比50%のCO<sub>2</sub>削減効果</li> </ul>
参加賞	株式会社テツカ産業	CO2排出量の削減	<p>中小企業向けSBTの認定を取得（2025年4月） 社有車のHEV,PHEVの導入 本社事務所の照明をLED照明に更新 大型ダンプの1年間の走行データを元に実燃費を算出し、社内でのエコドライブ運動を実施 本社事務所にEV車の充電スポットを設置</p>	SBTの認定を取得する仮定で、前年の燃費、電気、ガスの合計から年間のCO2排出量を数値化することで、従業員の意識改革につながった。各活動の実施により、CO2の削減。
参加賞	株式会社北川組鉄工所	SDGS/ブランディング活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献：フードロス削減と地域貢献、パン屋さんの手作りパンを社内で販売しています。賞味期限が迫っているパンを購入・販売しております。</li> <li>・フードドライブ活動に依るフードロス削減と地域支援：家庭で使いきれずに残っている食品等を従業員から募り、子ども食堂等の地域の福祉団体へ定期的に寄付を行っています！</li> <li>・地域清掃活動：石狩新港地域にて、組合の皆様と協力しながら定期的な清掃活動を行い、地域の美化に努めています。</li> <li>・書類溶解&amp;リサイクル活動：弊社から排出される廃業用紙を活用し、株式会社シオザワ様およびコアレックス道栄株式会社様のご協力のもと、スモールサイクルによるリサイクル活動を実施しています。</li> <li>・置き型社食の「OFFICE DE YASAI」：総菜・サラダ・フルーツなど多岐にわたる種類が豊富。しかも100円という低価格ながらも魅力です★</li> <li>・ブランディング活動 2025年5月 会社のロゴが新しくなりました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新ユニフォーム、ヘルメット、防寒着</li> <li>○ 北川組鉄工所 オリジナルグッズの販売・配布。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マフラータオル・軍手・オリジナル缶(大小)・車用ステッカー・ステッカーセット（シール）</li> <li>・ロゴTシャツ・ロゴベルト・鉄製下駄箱(弊社 来客、社員用 下駄箱)・ロゴマーカー</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスでやさしい・・・社員に好評です。冷蔵、冷凍ものもあり種類も豊富。ランチ代も安価。</li> <li>・ブランディング活動により リクルートの関係では中途採用の応募が多数。</li> <li>お客様からもホームページが明るくなったと評判です！！</li> </ul>
参加賞	有限会社伊藤工務店	子ども食堂への継続的な支援 ～持続可能な未来をつくる～	<p>1. 子ども食堂への継続的な寄付 私たちの活動は、単なる金銭的な支援に留まるものではありません。 共働き世帯が増加する現代において、放課後を一人で過ごす子どもたちに温かい食事と安心できる居場所を提供することは、地域の未来を支える「持続可能な社会のインフラ」として不可欠な役割であると考えています。</p> <p>2. 多世代が繋がる「夏祭り」の開催 地域の小学生をはじめとする多世代が交流できる「夏祭り」に協力・協賛しました。 スタンプラリーやビンゴ大会などの催しを通じ、地域の小学生と楽しいひとときを過ごしました。 最後にはお菓子とオリジナルタオルをプレゼントし、温かな交流の中で無事に閉幕いたしました。 お祭りを通じた体験の提供は、子どもたちの郷土愛を育み、地域コミュニティを未来へつなぐ「心のインフラ」としての役割を果たしています。</p>	子どもたちが安心して過ごせる「居場所」を確保し、誰もが温かい食卓を囲める持続可能な社会への一歩を踏み出しています。こうした取り組みは、地域全体の孤立を防ぎ、住民同士が自然に助け合える持続可能な関係性を築くための種まきです。私たちはこれからも、地域交流と安心安全のサイクルを通じて、地域全体で子どもたちを支え合うサステナブルな仕組みを構築し、未来へと続く強固な絆を育んでまいります。
参加賞	有限会社中村内装	廃材の再利用の取組み 環境保全を意識した取り組み（コスト管理・労働環境の整備）	<p>① 三菱電機郡山 8 B 号機作業所にて使用した石膏ボードのリサイクル ② 暑さ対策において空調服の支給・使用</p>	<p>① 石膏ボードのリサイクル率100% ② 熱中症災害ゼロを達成</p>
参加賞	株式会社エフ・ケー	・CO2 排出の削減 ・電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社有車すべて（6 台）をハイブリット車に変更</li> <li>・事務所を、遮熱塗料へ塗替え</li> </ul> <p>地球温暖化の影響で、年々気温は上昇しており、夏場の建物内の室温上昇は空調使用の増加を招いている。 遮熱塗料を屋根・外壁塗装に導入し、表面温度上昇を抑えて冷房使用を抑制することができる</p>	二酸化炭素の排出量、ガソリン使用量の削減 エアコン使用量の削減
参加賞	株式会社ムラヤマ	社員が安心して、仕事と生活ができるように、雇用環境の整備を行なうため、次のような行動計画を策定する。	<p>目標1 所定外労働時間の削減をするため、ノー残業デーの設定と実施 &lt;対策&gt; ● 平成28年 4月～ 現状 ノー残業デー実施しての問題点抽出 ● 平成28年 7月～ ノー残業デーを増やす方法検討 ● 平成28年 9月～ 年間カレンダーにノー残業デー表示 月2回 ● 平成29年 9月～ 年間カレンダーにノー残業デー表示 月3回 ● 平成30年 4月～ 月4回のノー残業デー実施検討</p> <p>目標2 地域社会への貢献と次世代育成支援をするためにインターンシップの積極的な受け入れと、小・中学校の校外学習のために工場見学等の受け入れを実施する &lt;対策&gt; ● 平成28年 5月～ 掲示板等により社員への周知 ● 平成28年 7月～ 高校・大学のインターンシップの受け入れ ● 平成28年 7月～ 新入社員の家族参観日の設定</p> <p>目標3 2024年からの働き方改革に対応するため、ファブ業界の中では早めに完全週休二日を実施 &lt;対策&gt; ● 令和5年4月～ 休日 125日/年を確保</p>	残業時間削減や休日の増、工場見学の機会を設けた事で、離職者の減や、求人活動についても、毎年2～3名程度の新入社員を迎える事ができ、まだ外国人を雇用するまでには至らない組織(人員配置)が出来ております。
参加賞	岩野物産株式会社	ハラスメント研修の実施	<p>ハラスメント防止に関する取り組み 全社でハラスメントに対する意識向上をはかりました。 内容 本社にてハラスメント研修の実施 11月実施 仙台支店・工事部については動画（約50分）の視聴 受講者47名に全13問の理解度チェック</p>	受講者47名 初回理解度平均91.2点（全員満点になるまで実施）
参加賞	株式会社吉田産業	企業ブランドイメージ向上及び新入社員のリクルート活動に寄与するための社外への宣伝活動	<p>東北圏内テレビCM（民放6社）・動画広告・WEB広告および地下鉄広告を掲示する等で企業活動・多様なワークライフスタイルを紹介し企業イメージを向上させ、リクルート活動にも寄与する。 (テレビCM) 1. 企業CM（2025年） ・ヨシダは商人ダ。 ・ヨシダは家庭人ダ。 ・ヨシダは商人ダ。 ・ヨシダは商人ダ。 ・ヨシダは職人ダ。 ・ヨシダは趣味ダ。 ・ヨシダは趣味ダ。</p> <p>2. 吉田産業100周年CM ・Y S 1 0 0 周年 八戸編 ・Y S 1 0 0 周年 青函秋田編 ・Y S 1 0 0 周年 岩手編 ・Y S 1 0 0 周年 南東北編</p> <p>3. 動画広告・WEB広告 ・Youtube広告 ・Googleディスプレイ ・Yahooディスプレイ ・Meta広告（Instagram/フェイスブック）</p>	新入社員採用者数：前年9名 ⇒ 採用予定17名 WEB広告視聴者数：動画広告142万回再生、WEBディスプレイ広告1,580万表示 <a href="https://www.yoshidasangyo.co.jp/company/tvcm/index.html">https://www.yoshidasangyo.co.jp/company/tvcm/index.html</a>
参加賞	守屋木材株式会社	温室効果ガス削減活動	<p>1) 仙台市温室効果ガス削減アクションプログラムに参加 ・エネルギー使用量や省エネ・脱炭素に向けた目標計画書を作成しPDCAで省エネの取り組みを進めて行く参加型の支援制度になります。 【事業所（本社）の概要 ・建屋は大断面集成材を使用しており窓はすべて2重サッシ、断熱効果は高く、夏季は前日のエアコン冷気、冬季の暖房による暖気が朝まで残っている場合もある</p>	日光発電システム導入によりCO <sub>2</sub> 削減量は25年度の集計で基準数値に対して5.4%の削減の予定結果ができました。 使用環境に左右されるエネルギーなのでより一層の節電に取り組み削減に取り組んでいこうと思います。

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社角藤	「地中熱ヒートポンプシステム」のScope1・2・3への貢献度を見える化すること	1. 活動目的 当社開発の新型地中熱交換器を熱源とした「地中熱ヒートポンプシステム」について、ライフサイクル全体における施工時と運用時のCO <sub>2</sub> 排出量を算出・比較し、Scope1・2・3への貢献度を見える化することです。 2. 比較方法 ① 施工時 (Scope3) の比較検証 長野県岡谷市民間企業社屋建設工事にて、従来型地中熱交換器と新型地中熱交換器の施工を実施し、各施工に伴うCO <sub>2</sub> 排出量(重機、運搬時の燃料ベース)を算出し、比較しました。 ② 運用時 (Scope1・2) の比較検証 同一建物における2025年4月～2026年2月の実運転データをもとに、地中熱ヒートポンプシステムの実測値と同等の熱負荷を吸収式冷水発生機で賄った場合の推定値を算出しCO <sub>2</sub> 排出量を比較しました。	1. 活動結果 ① 施工時 (Scoop3) 当社開発の新型地中熱交換器導入により約3.5 t-CO <sub>2</sub> (従来比約44%) 削減 ② 運用時 (Scoop1・2) 「地中熱ヒートポンプシステム」にて、約1年間運用すると、約32.7 t-CO <sub>2</sub> (従来比約74%) 削減 2. まとめ 本検証により、当社開発の新型地中熱交換器を熱源とした「地中熱ヒートポンプシステム」は、施工段階 (Scope3) および運用段階 (Scope1・2) の双方において高いCO <sub>2</sub> 削減効果を有することが実証されました。 特に「地中熱ヒートポンプシステム」は、運用時における削減量が大きく、脱炭素・カーボンニュートラル実現に向けた有効なソリューションであることが分かりました。
参加賞	株式会社つきの	ゴミ圧縮機導入による産廃処分費の節約及びSDGsへの取り組み	本社の年間産廃処分量【8㎡×12コンテナ】をリサイクルコンパクター(ゴミ圧縮機)の導入によりコストを全体の3/1に抑えることを目標にし、分別圧縮により、リサイクルの推進に役立てる。	◎ 活動効果・結果 (わかる範囲で、原則期間2025年1月～2025年12月の1年間)
参加賞	株式会社オオタ	「職人を育てる」～女性左官職人育成による業界イノベーション～	1活動の概要 弊社が、2020年から会社を挙げて取り組んでいる若手技能者の採用・育成活動である。 2活動の骨子 ・ 環境関連取組～処遇の充実による安心して生涯を託せる企業への成長 ・ 社会関連取組～訓練校における受入れ環境及び育成方法の改革 ・ 経営関連取組～女性職人が特性を発揮する活躍機会の創出 3期間中の具体的な活動内容～詳細は別紙記載の通り～ (1)環境関連取組～県・協会後援「建築女子の健康セミナー」自主開催 (2)社会関連取組～左官訓練校「プラスター」レ」の充実強化と出前授業の実施 (3)経営関連取組～ワークショップイベント「プラトリエ・フェア」開催 4戸田みらい基金助成事業と採用状況の関連性 活動テーマ～「女性左官職人の育成事業」	○ 熊本商工会議所主催「人を幸せにする経営大賞2025」において「キラリと光る取組み賞」受賞(2025.12) ○ 県知事賞受賞「優秀訓練校表彰」(2025.11)併せて、優秀職員、優秀訓練生表彰受賞(協会長表彰) 検定受験・全員合格～左官1級2人、2級4人、3級9人、タイル2級2人 ○ 令和8年度高校新卒者5人(男性2人、女性3人)採用内定(2025.10)、転職者2人(女性2人)採用 * 令和8年度将来世代応援企業表彰への県知事推薦企業に選出(熊本代表1社)
参加賞	株式会社東和	各現場の石膏ボードのリサイクル 社内内の災害時用備蓄品整備	① 産業廃棄物となる石膏ボードの端材を吉野石膏㈱のリサイクル回収を行い、センコー浦和ランテック棟(4.5t)・日本光電(16.7t)・三芳藤久保地域拠点(10.1t)の三現場で31.3tリサイクル処理をしました。 ② 災害備蓄用品を購入し社員へ周知会を行った。備蓄用品の点検と見直しを行い、社員向けに非常用電源とAEDの使い方研修を行った。	①三現場で合計31.3tの石膏ボード端材リサイクル処理を行いました。 ※三芳藤久保地域拠点は2026年3月まで見込んでおります。 ※三芳藤久保地域拠点は2025年12月までだと2.5tとなります。
参加賞	ヒロセ株式会社	(継続) SMW工事におけるCO <sub>2</sub> 削減工法の採用	SMW 施工時のCO <sub>2</sub> および汚泥の発生量を削減するため、ECO-MW工法を提案している。SMWからの変更の際に、以下の点で対象となる現場に対して、提案を行っている。 ①先行削孔がないこと(先行削孔のセメントに反応して薬材が増、また品質管理が難しいため) ②対象土がローム、凝灰質粘土 粘性が特に高い土質でないこと(効果が出にくい) 以上のことを考慮して提案を行っています。	2025年は該当現場がありませんでした。引き続き、2026年もSMW工事において提案をしていく。
参加賞	ヒロセ株式会社	品質管理状況を現場・店社・本部で共有	・土留杭・構台杭の出来形管理を現場の職長が記録し、LINEグループにアップ。 ・上席者、施工本部が内容を確認し、不具合が無いか等をチェックし、職長にフィードバック。	出来形管理を複数のチェックをおこなうことにより、セメントミルクの注入量の不足、杭材の傾斜、精度不良の見落としを防げた。
参加賞	株式会社弘電社	CO <sub>2</sub> 排出の削減および類似品質不具合の撲滅	①類似品質不具合撲滅目的のためM-S H E Lの導入 ・人、設備、環境、管理の多面的視点で要因整理ができ見落としを防止 ・表面的な対策ではなく、根本原因に基づく再発防止策の立案が可能 ・個人のミスだけでなく管理や環境面などの品質不具合全体を見る視点評価が可能 ②社内の部門毎のパトロールを極力同一日程化する【前項目継続】 ・期待効果：現場担当者の対応時間が減少の方向となるので、微々たるものだが現場事務所のエネルギの削減となる。 ・実施細目：工事部門管理者のパトロールと品質部門のパトロールを組み合わせる	①類似品質不具合撲滅目的のためM-S H E Lの導入 ・品質不具合の発生要因を5つの観点から整理し、各要因ごとに実効性のある再発防止策を検討する。 【要因事項】①管理・組織・運営 ②規則・計画書/要領書・周知会・情報 ③資機材、装置 ④作業環境、適正配置 ⑤対人、相手(作業指揮者など) また、分析結果は水平展開し類似不具合の未然防止及び品質管理強化につなげる。 ②社内の部門毎のパトロールを極力同一日程化する ・各部門で個別に実施している品質・安全パトロールについて、日程を可能な限り統一し同一日で実施することで確認項目、評価基準の平準化、情報共有の迅速化および効率的なパトロール体制の構築が図れる。 また、実施結果は部門間で共有し指摘事項の横断的な改善と全社的な品質・安全レベルの向上につなげるとともに、移動回数の削減による環境負荷低減および対応時間の効率化による労働時間の短縮が図れる。
参加賞	株式会社前田産業	①空調服を着用し、作業効率アップ(新規26着購入) ②熱中警戒アラートバンドの導入(新規100個購入)	①空調服を着用し、作業効率を上げる(継続的な取り組み) 空調服を着用すると涼しくなるので、熱中症を予防できると共に、作業効率の向上につながっている。 空調服着用で、体力が温存できるので、連続作業が可能となっている。又、夏場の嫌な臭いの原因の多くは汗で雑菌が繁殖してしまうのを防ぎ、服の中を常に換気してくれるので、雑菌の繁殖を抑え衛生的である。 ②暑熱環境下での熱中症リスクを測定し、警告音や光、振動で15秒ごとに自動で体温を測定し、異常をリアルタイムで判断する。使用者は自分の体温がどの段階にあるかを客観的に把握、判断することができ、適切な熱中症対策を講じることができる。社員並びに協力業者の方に貸出している。	
参加賞	株式会社ヒロタ	パレットリサイクル	①材料を現場へパレットに乗せて搬入(メーカー及び加工業者からパレットにて入荷、業者は基本使用済パレット引き取りません。) ②材料荷下り後、次回材搬入時に使用パレット回収 ③自社で再度使用の他、余ったパレットは運送業者・希望者に回収してもらい再利用 ④結果、廃材はごくわずかではば再利用、リサイクルとなる。	少なくとも200～300パレット(全体)リサイクル可能
参加賞	株式会社岡元タイル	事務所固定費の削減	事務所内の照明をLEDに交換した 会議資料のペーパーレス化	電気利用量、事務用品における支払い料金の低減を報告
参加賞	山孝建材株式会社	①残コン処理に改良剤のTERA使用 ②熱中症対応 ③外国人労働者への配慮	①ポンプ車でのコンクリート圧送終了後のホッパーの残コン処理時ホッパーに粉末状のTERAを散布し3分程度攪拌し砕石化した残コンをRC材として処理 ②従業員の着やすい空調服とファンとバッテリー×2個を支給。また、スポーツ飲料とOS-1を社内に常備し毎日支給した。現場ではこまめに休憩できるように交代人員を増員しました。 ③技能実習1号の従業員が安心して現場で作業できるように技能実習2号の方や特定技能1号の作業員へ同行させ打設作業や現場のルールなどを指導してもらうようにしました。	①改良剤のTERAは劇物を使用していないため安全に残コンの処理ができている ②熱中症で倒れる作業員はなかったが対策はまだまだ必要だと思えます。 ③まだ日本語の理解は低いです母国語での指導は効果があると感じました。
参加賞	株式会社佐幸製作所	環境と社員への配慮	環境 ・木材加工の際出る木くずは家畜産業に譲ることで廃棄物を減らし再利用していただいています。 ・木材は大前提ではありますが、代替品可能なものは材料の相談させていただきます。 社会 ・品質管理に対する作業員との周知、確認 働き方、残業削減、休暇などへの配慮。 ・丸ノコなどの機械設備の点検等定期的に実施し安全確保。	事故なく廃棄物も減りこれからも継続していきます。
参加賞	石井硝子株式会社	熱中症対策	作業員の夏用の空調服を制服とし社員に支給した。	作業員の負担が減った。 作業員の統一感がうまれた。
参加賞	三谷商事株式会社	戻りコンクリートの削減	工事現場に納入した生コンクリートが、余剰により、工場に戻りコンクリートとして返品されることが多々あります。 返品された戻りコンクリートは、工場にて産業廃棄物として廃棄するのが通常ですが、添付のベトンプロックの型枠に流し込み、脱型してブロックを作成して、敷地内の擁壁等に使用しております。	
参加賞	株式会社 三國	材料管理の効率を上げる	メーカー主導により、シーリング材料缶の形状をテーパー缶(底が若干すぼまった形状)に変更。材料積み重ねの安定性を向上させて材料保管スペースの効率化を図る。 メーカーとの注文・請求書類を紙・FAXから電子ベースに変更。	テーパー缶に変更することで、保管効率のほかに、台車等での運搬効率も向上したことで、資材置き場の省スペースに成功した。 電子化により、FAXで発生する紙資源の節約につながった。

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	新菱冷熱工業株式会社東北支店	・SDGS・カーボンニュートラル	①社有車のハイブリッド化を進めている(東北支社)。 ②自社建物における太陽光発電設備の設置、自然エネルギー利用(つくば)。 ③随時、高効率設備機器、省エネの採用を客先へ提案している(東北支社)。 ④配管設備の長寿命化を目的に腐食させにくい水の開発及び運用を行っている(つくば)。 ⑤ある活:携帯アプリを用いた全社員対象の歩け歩け運動を行っている(全社)。 ⑥支社や営業所、現場事務所のレイアウト変更(刷新プロジェクト)を行っている、働きやすい環境づくり(全社取り組み)。 ⑦産休や育休取得を促し実施している。	①33/46台(ハイブリッド化進捗状況) ②2009年比較62%削減 ③支社及び営業所7件、その他現場事務所3か所 ④産休1件、育休3件(東北支社)
参加賞	株式会社普野左官店	左官作業における汚れ水(ノロ水)の廃棄方法	左官作業では多くの水を使用します。 その中で発生する汚れ水(ノロ水)の廃棄について、ろ過をすることで環境を考えた廃棄を実施いたしました。ろ過の方法については別紙を添付しております。	年間を通し、環境を考えた廃棄を実施できました。
参加賞	銅谷建設株式会社	環境に配慮した施工への取り組み	1.近年の平均気温の上昇による熱中症対策として、5月に弊社所属の職人さんへの空調服及びバッテリーの購入・配布を行いました。 2.弊社型枠加工場での型枠加工時に発生する端材(コンパネ・桧木)PPバンドの分別を実施しております。 3.現場で型枠転用率を上げるよう打設順序の検討、大型型枠パネルの使用、システム型枠の使用を検討会等で元請へ提案・実施しました。 4.弊社事務所で、エコマーク表示の事務用品を購入・使用(バインダー・事務文具用品等)しております。 5.営業日毎朝、弊社事務所周辺の道路清掃を行っています。 6.現場までの通勤車両を単独通勤から乗り合い通勤にして、車両のCO2排出量を削減しました。 7.みちのくEMS(中小企業を対象とした地域版環境マネジメントシステム)への取り組みを2010年3月29日に認証を受けて以来、継続して行っております。	・みちのくEMSの取り組みで、環境方針を元に環境目標を定めて、社内・現場共に活動を継続して行い、事務所電気消費量の削減、現場騒音振動の苦情0件、社外の社会貢献活動への年回参加等、達成しております。 ・2023年空調服とバッテリー21セット、2024年24セット、2025年23セットを弊社職人へ配布し、3年間で熱中症災害1件に留めております。
参加賞	福興電気株式会社	環境美化活動	毎週月曜日(雨天中止・12月～3月期間は休止)の朝7時30分から会社周辺の道路や公園のゴミ拾いを実施しています。 人数は参加可能な社員10人前後に行きます。 清掃バサミ、ゴミ袋は会社より支給しています。 時間は約15分から20分程度です。	ゴミが雨などで流され、海に到達して「海洋プラスチック」になるのを未然に防いでいます。 会社周辺をきれいに保つことは、地域住民の方々にとって心地よい環境を提供することになり、社会的な持続可能性につながります。 従業員が定期的に参加することで、「自分たちの環境を自分たちで守る」という意識が自然と醸成されます。
参加賞	ダイタン株式会社	空調改修工事における熱中症対策	空調機更新工事 室内空調機更新中はエアコンが停止、またテナント内のため窓を開けることができないため非常に蒸し暑い。 8階建のビルの屋上に室外機があり、日陰も少ない中で、室外機の配管作業を行う必要があること。 屋上作業からの移動はELVでの移動となるが、テナントのお客様の居ながら工事のためELVが来るまで時間がかかる事。 宇都宮市の2025年度夏は35℃以上が29回観測され、月平均気温も観測史上最高を記録している環境下であること。上記理由により熱中症リスクが高い。 (対策) 朝礼時に塩分飴又は塩梅の配布摂取確認。応急処置キット、経口補水液、WBGD計による計測、熱中症アラームカウチア等の基本的な対策に追加して移動式冷凍冷蔵庫とネックリング、アイススラリーの導入を行った。 ・ネックリング…熱伝導(熱いものが冷たいものへ熱移動する現象)により首周りの体温を下げる効果 ・アイススラリー…細かい氷の粒子が液体に分散した状態の飲料。流動性が高く、体の内部を効率良く冷却できる。 ・移動式冷凍冷蔵庫…冷たい飲み物等を入れ、体に直接冷たい飲み物を摂取することで深部体温を下げ、脱水および熱中症対策効果。飲み物のほかに上記ネックリング等の熱中症対策グッズを格納しやすく冷えた状態で身に着けられる環境ができる (補足) ・ネックリング1つ1000円程度 ・冷蔵庫30L電源式3万円前後、冷蔵庫30Lバッテリー式8万円前後 ・アイススラリー…1袋200円程度	①移動式のため屋上作業時は屋上に、室内作業時は室内廊下へ移動が容易であり、瞬時に飲み物やネックリングを取り出せる環境が簡単に作れる ②ネックリングおよびアイススラリーの熱伝導効果による熱中症リスクの低減 ③1日中空調のない室内および8階建のビル屋上で作業していたが、熱中症および労災事故0件で工事を完了することができた。
参加賞	日本コンクリート工業株式会社名古屋支店	資源循環型社会への対応	環境製品の開発・販売 コンクリートスラッジの再資源化技術により、エコタンカルは軽質炭酸カルシウムとして、P AdeCSは環境浄化材として利活用ができます。 ・エコタンカル エコタンカルは大気中に放出されるボイラーの排ガス中のCO2をそのまま炭酸カルシウムとして固定した材料です。CO2排出量の計算上、エコタンカルを原料に使用するだけで、CO2削減効果が見込まれます、コンクリートの細骨材の一部として、エコタンカルを置換えることで、原料由来のCO2排出量の削減効果があるとともに、材料不分離性などの効果も見込まれます。 ・グリーン製品 グリーンONAパイル コンクリート由来のCO2排出量は、従来のコンクリートパイルに対して、約40%削減。 グリーンNCボール コンクリート由来のCO2排出量は、従来のコンクリートボールに対して、約45%削減。 グリーンPC一壁体 コンクリート由来のCO2排出量は、従来のPC一壁体に対して、約48%削減。 P AdeCS P AdeCSsは畜産資材として利用することができ、畜舎の周りに散布することで消毒効果があります。従来、消毒剤として消石灰が慣例的に使用されてきましたが、P AdeCSを使用することで安価に代替することができます。さらに消石灰を使用する時よりも、約750kg-CO2/tのCO2削減貢献が見込まれます。	
参加賞	三見金属工業株式会社東北支店	A.自社ボード梱包仕様変更(環境) B.フレックスタイム制度の導入(社会)	A.自社OEM品のウレタンボードの梱包仕様を変更。PPバンドの箇所数及び角あての量(通しから部分)を減らし、敷ダンボールを除去。バンドの締め付けや端部からの締め付け位置を見直すなどして品質は維持。 B.2025年4月より、働き方の施策として「フレックスタイム制度」を導入。コアタイム(出勤しなくてはならない時間帯)を基準とし、始業時間7:00～10:00、終業時間15:00～20:00を社員自前で決定して労働をする。例えば「8:00～12:00現場対応、13:00～現場確認&打合、15:00退勤。翌日7:00～事務作業」といった自由度の高い働き方が可能となる。	A.梱包材のみの比率として25%の削減となる。製造コスト削減、産廃時のゴミ削減の見通し。 B.個人での作業効率化の向上につながった
参加賞	株式会社細田組	1.熱中症対策 2.環境対策 3.災害時の社員安全対策強化 4.社員の健康増進 5.定期健診の強化	1.熱中症対策 ○数年前から空調服を全員に支給し、消耗品となるバッテリーについても都度付与。また、冷蔵・冷凍庫を設置し各班にクーラーボックスを配備。冷蔵・冷凍庫で冷やした経口保水液、保冷剤や塩飴を現場に持参させ熱中症対策を強化。これらの取り組みにより熱中症発症ゼロを継続している。 2.環境対策(紙資源節約とCO2排出抑制) ○FAX受信を自動印刷からPDF確認へ切り替え、不要印刷を削減し紙資源と紙使用量を大幅に削減。 また、職人の相乗り通勤と社有車のハイブリッド化を進め、車両台数とCO2排出量の低減を継続している。 3.災害時の社員安全確保のための備蓄体制強化 ○震災などの緊急時に備え、防災リュック(衛生用品や防寒具等、必要最低限の物資30点収納)や長期保存水、非常食3日分を本社に備蓄し必要物資を常時確保している。 4.社員の健康増進 ○本社の一室をリフォームし、社員が自由に利用できる「トレーニングルーム」「共有コミュニケーションスペース」を設置した。身体負担軽減、健康増進、メンタル対策を目的とし、業務後や休憩時間に利用でき、社員同士の交流、社員の体力維持・ストレス軽減に寄与している。 5.定期健診の強化 ○定期健康診断において、通常の検査項目に加え、生活習慣病に関する検査(検便、胃X線検査)を全社員に実施し、社員の健康維持と長期的な就労支援につなげている。	1.昨夏熱中症発症者0名 2.紙資源、トナーの消費を約9割削減。通勤車両削減、ハイブリッド化によるCO2排出量削減。 3.社員の安全確保と災害時の初動対応力の向上、事業継続体制の強化に寄与。 4.「体力維持に役立つ」「気分転換になる」などの声があり、働きがい向上・健康増進に寄与。 5.多くの社員から好評で、健康診断の充実が「働きがい向上」と「離職防止」に寄与。
参加賞	日特建設株式会社東京支店	CO2の削減	作業所の車両及び協力業者の車両への(KS-1)添加剤使用。	結果検証はできておりません。
参加賞	中幸有限会社	自然との共生と文化の継承 地域貢献	○農業や化学肥料を使用しない地球に体に優しい野菜作りをし野菜と心を育てます。 自然栽培の講師を招いて産学と実技。 ○自然栽培の真菰の田植えは9回目を数え、能登地震震災復興支援も加わりました。 昭和半ば位まで使われていた農具を使い生きた資料館の様になっています。	田植えには東京大阪からの参加者もみえ、年々自然栽培への関心の深まりを感じました。 昨今の中間層からも大量の石油エネルギーを使い作られている化学肥料は今後値段の高騰が予想されます。肥料を使わない微生物の活用による自然栽培はこれからの時代に必要なことだと思います。
参加賞	宮本産業株式会社	CO2削減の取り組み	1.燃費向上の効率がある添加剤「K-S1(戸田建設 推奨)」を使用。 2.太陽光発電による電力供給を行い、CO2排出量の削減に取り組んでいる。 稼働開始は、A所:2015年～、B所・C所:2018年～、です。	1.2025年1月～12月の実績は、30.71リットルでした。 2.2025年度の年間実績は、 A所:622,738kWh、B所:83,904kWh、C所:14,512kWh、発電総量721,154kWh CO2削減量換算値(電気事業者協会の公表値)0.357kg-CO2/kWh → 257,451kg (=257.45t) スギ1本が1年間に吸収するCO2量は約8.8kg-CO2/年 → 29,255本分に相当 灯油1LあたりのCO2排出量はおよそ249kg-CO2/L → 103.39kg分に相当

選考結果	会社名	活動テーマ	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社西原衛生工業所	水の活用を通じて社会に貢献する	<p>『排水から涼を得る』</p> <p>地球温暖化が叫ばれる昨今、打ち水による気化熱による地表温度低下の効果が見直されており、meccが活動主体となっている地域イベント「打ち水大作戦」へ賛同し、当社にて施工・維持管理を行っている中水設備保有企業へ呼びかけ排水から造水した中水を提供いただき、打ち水として活用することで地域の環境意識向上へ寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・mecc … minato eco conscious consortium</li> <li>・実施内容 打ち水による気温低下効果実証実験活動へ協力企業より計 2,000Lの中水提供</li> </ul> <p>全5回中、2回のイベントへの社員参加</p> <p>【再生水活用メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上水利用量削減に伴う間接的なCO2削減に貢献</li> <li>・地域との協同により環境意識向上へ寄与</li> </ul>	